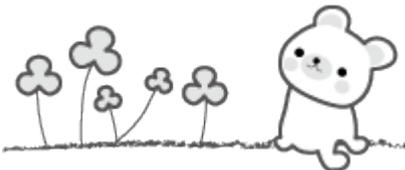




お釈迦様のご誕生をお祝いする 降誕会（お花まつり）

5月5日（日）

14時から法要を行います。
どうぞ お気軽にお参りください。



うらかな春の日差しが嬉しい季節となりました。

菜の花やたんぽぽが揺れ、田植えの時期を迎えると、山にも緑が戻ってきます。

一年の中でも、仏教界で特に大切にされる日を「三仏会（さんぶつえ）」といい、お釈迦様ご誕生の日、お悟りの日、お亡くなり日には心からお釈迦様に手を合わせます。

さて、その「三仏会」のひとつ、お釈迦様ご誕生の日「降誕会（こうたんえ）」は花御堂の中の誕生仏に、甘茶をそそぐことで知られています。



お釈迦様は、北インド（現ネパール）のカピラバストゥという小国のシャカ族の王子としてお生まれになりました。本名は「ゴータマ・シッダールタ」といいます。

お母様は摩耶（マーヤ）夫人といい、お産のためお城から実家へ里帰りする途中、産気づいてルンビニー園にてご出産されたと伝えられています。

お釈迦様はお生まれになると、7歩進まれて、右手で天を、左手で地を指し、

「天上天下唯我独尊（てんじょうてんが ゆいがどくそん）」

意： 世界にこの命はただ一つ、
だからこそ、すべての生命には価値があり、どれも尊いのだ

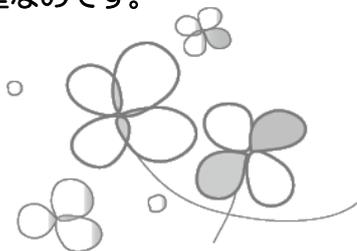
とおっしゃり、世界中は歓喜にあふれ 龍王が天から香水を灌いだと伝えられます。そのご誕生の様子や、世界中の喜びを模したのが、花御堂なのです。

お母様である摩耶（マーヤ）夫人は、6本の牙をもった白い象が胎内に入る夢を見て、お釈迦様を懐妊されたお話でよく知られていますが、実はお釈迦様をご出産された後、7日後にお亡くなりになります。

摩耶夫人は死後、帝釈天（たいしゃくてん）が住む忉利天（とうりてん）という世界に転生します。

そして、わが子であるお釈迦様がついにお亡くなりになるその時、天上からお迎えにいらっしゃることとなります。

その様子は、「涅槃図（ねはんず）」にも美しく描かれています。



大智寺では、5月5日に本堂へ花御堂をお出しします。
生まれたばかりのお釈迦様に甘茶をおかけし、
ご誕生をお祝いいたしましょう。



大智寺だより

平成 25 年 卯月
Vol.38

発行所

大智寺

岐阜市山県北野
668-1

電話：058-229-1532

《Mail》

hybsr245@ybb.ne.jp

《ホームページ》

大智寺

検索

<http://www.daichiji.com>

当紙は、大智寺本堂及び墓地の水小屋にてご自由にお取りいただけます。また、当寺ホームページにて過去の紙面をご覧いただけます。ご活用ください。

3月号発行部数
300部

ご愛読

ありがとうございます

3月31日 支考忌開催

例年より早めの桜が咲き始めた3月末、各務支考の菩提を弔う支考忌が、お寺の書院にて厳粛に行われました。



当日は、岐阜新聞「うたごよみ」で活躍の大野鶴土（おおのこうし）獅子門道統をはじめ、小学生への俳句普及に力を入れられる梅村五月道統補佐（ごりゅう）席の中、20名ほどの参加者が集い厳かに儀式が執り行われました。

床の間には、各務支考の像を安置し、三類図の掛け軸が飾られ、ツバキが生けられました。

支考直筆の三類図（さんるいず）の「類」とは、「うつむく」という意味で、円窓内の三人物は、中央に老荘の徒、向かって右に儒生、左は佛者で、それぞれが支考の分身といわれ、老荘思想に似た支考の俳諧道（智、仁、勇の三徳）に儒と佛が伏し、支考の俳諧道を象徴しているそうです。

支考忌では、袴姿、着物姿で正装した連衆が、それぞれ五七五、七七の句を読み上げ、執筆（しゆひつ）と呼ばれるさばき手が懐紙に次々と書き加え、歌仙が巻き上がる中、支考像に献上し、静かに菩提を弔って会は終了しました。

お彼岸前の弘法堂お掃除 ありがとうございました。

花粉が気になり始めた3月12日、里4号の皆様が弘法堂のお掃除をしてくださいました。暖かい日が続いたかと思うと、寒くなる不安定な時期で、その日はちょっと肌寒い朝でしたが、いつもの明るい元気な雰囲気、手際よくお掃除していただき、ありがとうございました。

お花も、梅やサンシユ、桃の花といった春らしい色合いでお供えくださり、弘法様も皆様のお経を聞きながら、いいお花見になられたのでは、と思います。

お経の後は、いつものようにお茶菓子とともに畑のほうれん草の具合や、冬の正月菜がなかなか大きくならなかったことなど、いろいろなお話が出て、和やかなひとときとなりました。

皆様のおかげで無事お彼岸をお迎えすることができました。ありがとうございました。



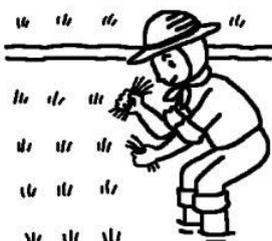
春の托鉢 北野地区は4月3日

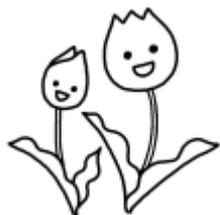
例年行われる春の托鉢。「この托鉢を行うのは報聖会（ほうしょうかい）」という、宗派を超えた三輪・藍川地区の近隣寺院の会です。

真言宗や浄土宗、曹洞宗など、托鉢にはいろいろなお寺の和尚様が回られます。この春の托鉢は、4月1日から始まる予定で、初日は、若井や世保、春近や溝口方面にて托鉢を行い、中日は、福富や太郎丸、石原方面にて托鉢を行い、最終日には、あたる4月3日に、朝の時から三輪・門屋地区、10時から岩・西山・出屋敷、11時から北野地区を回る予定となっています。

この「報聖会」の托鉢は、すでに10年ほどの歴史があります。それぞれのお寺も代替わり、次の世代が引き継いで、年に2回托鉢をしています。宗派を超えて、近隣のお寺同士が協力して協力し合い、一同に会する機会を、今後とも今まで通り大切にしていきたいものです。

托鉢当日は、複数の和尚様が手分けをして回りますが、多少時間に誤差が出ます。ご理解ご協力をお願いします。





～ まめ知識 インタビューしてみました ～

第八回：お仏壇屋さんの「仏壇の電球①」エピソード



ご自宅のお仏壇に手を合わす毎日に、
ちょっとお役に立てればありがたい、そんなお話。

お仏壇には、手元や仏様を明るく照らす「電球」が配置されています。
電球があることによって、たとえ夜でも明るいお仏壇に手を合わせることができます。
今回と次回は、そのお仏壇の電球についてのお話です。

お仏壇の電球は、お仏壇をご用意された時期によって電圧や形が異なります。
たとえば、30年程前のお仏壇には、なんと100Vの電球がそのまま使っており、
15年程前のお仏壇には、12V前後の電球、
その後、仏壇専用のアダプターが付けられ、8V前後の電球が使われるようになりました。

たとえば、ロウソク立てに100Vほど電球が使用されており、
電源が付いた状態で、何かの拍子にそのロウソク立てが倒れると、
そばにある打ち敷きや紙類布類に火が出て、火事の原因になることがあります。(次回へ続く)
《 大野仏壇総本店 》

今月のひまわり

先月には目立たなかったフキノトウも、探さずとも
目に付く程大きくなり、本堂前やお墓の前の桜も咲き
始めました。花粉症の方には辛い春先ですが、日ごと
に温かくなるのを感じます。

4月は何事も心機一転、気持ち良いスタートを切り
たいものです。学生の頃は、入学式やクラス編成、新
しいお友達との出会いや新しい事への挑戦があり、特
に心躍る月だったように思います。そんな4月の思い
の背景には、いつも桜がありました。

「咲くも無心 散るも無心
花は嘆かず 今を生きる」(坂村真民)

大人になってみると、改めて桜をしみじみ花見する
機会も減りますが、だんだん心を感じる「花の美しさ」
に畏敬の念が生まれてくるように思います。大智寺の
本堂前の桜も数年来の大雪で枝が折れ、特に花見客に
褒められるわけでもありませんが、それでも「今年は
休業」ということもなく、痛々しくも「今年の精一杯」
を見せてくれます。

振り返って、自分はどうだろうかと思うと、何気な
い他者の一言に急にやる気を落としたり、逆にとても
一生懸命になったり、毎日心は振り子のよりに動い
ています。

何に左右されることのない
「強い美しさ」を桜に学ぶ、
今年度のスタートです。



～ シリーズ 北野のおばあちゃんの味 ～

♪ 北野で丁寧に野菜を育てるおばあちゃんの味 おすそわけ ♪

里3号のおばあちゃん シャキシャキ春のおひたし

- ① 根三つ葉を一束洗って、葉も茎も好きな大きさにざくざく切る。
- ② 沸騰させたお鍋にさっと入れ、湯がき過ぎずにさっと出し、
すぐ冷水に入れて、水を切る。
- ③ 昆布だし1カップをお鍋に入れて火をかけて、
しょう油はお鍋に「の」の字を2回書くくらい、みりんはほんのちょっと
入れて沸騰させ、出来上がったおつゆにさっきの音三つ葉を浸して食べる。

春は香りもいいものが多いで、嬉しいねえ。あんまり湯がくとあかん。
シャキシャキさせんと。でも生でもあかんのやよ。冷やしてもおいしいよ。





～ うちの宗教って、どんなやつけ？ ～

第四回：鎌倉にできた修行道場 建長寺

大智寺の宗門を、やさしく簡単におわかりいただければ嬉しい、そんなお話



日本へはじめて臨済宗を伝えた栄西（えいさい）が、1215年に亡くなった後も、鎌倉時代には、日本の仏教が大きく変わっていきました。

1224年には親鸞が浄土真宗を開き、1227年には道元が曹洞宗を開きました。そして、1246年には中国の僧、蘭溪道隆（らんけい どうりゅう）が来日し、鎌倉にて執権北条時頼の帰依を受けて、建長寺の開山となりました。

建長寺は、臨済宗建長寺派の大本山であり、国の繁栄と北条家の菩提を弔うために建立され、鎌倉五山第一の位を賜っています。当時は、中国人の僧も数多く修行する、最先端の禅の修行道場であり、道場は日常的に中国語が飛び交うような異空間であったと伝えられています。

一時は、千人を超える雲水が修行に励んだ建長寺に、1249年、南浦 紹明（なんぼ じょうみょう）という僧が参禅し、蘭溪道隆に教えを乞います。いったい南浦 紹明とはどんな人物なのでしょう。では、次回もお楽しみに。



♪ 月に一度はお寺まいり ♪

初心者 大歓迎
東日本大震災物故者追善供養
毎月 第四日曜日
定例写経会

今月の日程

4月28日（日） 一回 500円
（朝8時～9時） （内300円は義援金）
要申込

3月写経会 備忘録

梅もサンシュも咲き誇り、桜の開花情報もちらほら聞かれるようになった3月24日、いいお天気に恵まれ写経会が行われました。今月は、写経を終えたのち「野火焼けども尽きず、春風吹いて又生ず。」という禅語のお話となり、被災地の復興を皆様とともに願いました。

永代供養墓って、どんなお墓？

「永代供養墓」とは、将来お墓を守りする方がいなくても、永代にわたって、お寺が守って供養するお墓のこと。

大智寺の永代供養墓は、ご夫婦ご家族一緒にひとつのお墓にお眠りいただけるタイプです。永代に亘り、他の方のお骨と混じらないことから「完全個別永代供養墓」といいます。

ご希望の方は、いつでもご相談ください。



完全個別永代供養墓
1区画：38万円～
（墓石代金含む）

ご家庭のご事情により、また、その方のご希望により費用は変わります。

詳しくは、ご見学を含めてご説明いたしますので、ご予約の上、ご来山ください。